





いと〜児



棟浪作



東海津生  
 寄よ花廊と川一流を隔て、平井新田とを砂村よ橋  
 地あり。は兼よ添一急屋を花廊よ通ふ客を同約よ、種々の店を  
 驛へよ見ゆ多ぢ、女表を恨けたる原住よ等一き空地のみあり。彼方  
 吹込む風の耳を刺もみその夜半よも、砂橋橋よは車馬多き、舟天町  
 には伝歌浦よも、眼と鼻の滯よを蚊地ハ、垢捨一池を廻りて河津の浦  
 小舟よ多き津よく、女一人よを留守もさり難き河なり。  
 朔風の寒き人あらに、夏もやい海風の鹹味を合て、浴後の肌も腫れ  
 きて心地あり。朝の明衣夕迄よ五枚更もさる〜はるよまぞ、地あり

いそ〜児



う。実には醜い児だね、何處へ行ってたんでおいで。母やア之は尋ねね、坊の好  
 なお草でも何でも買つて送らうよ。好児だね、早く行ってたんでおいで。うん、花  
 ぶのいや。お草お草もう。いやん、く、お草合といふ。母やアよう。ツカのみ  
 以てね。母やア今お湯がさいよ。妹衣服を早く揃て行て、甘お代でね、と既魚  
 で既飯をあげよう。己之の魚好ぶねと賺せど、あせぐみてつ入ぬよ困ド東一々、彼  
 子の急よと隣のふ侍等二人、草あつた魚籠と好く、虫を捕へんと追ふそんころり。  
 うれきひと彼を捕へ、己之あれを洗、草やんお草やんお草を捕へて  
 うよ、己之も行て餐茶を捕へておいで。好児ぶ、く、今日は花を捕へ獲ると云  
 へど、男の兒として狂哉よと舞臺を母好ぶ、早くも己之の心を捕へて、好や行て好  
 い。おう、好く好くも。こつこつ捕へて早くお湯をこらみ寄よ、あまの魚籠を  
 を懐きてお外へおくり。母も子を止め、己之きつ魚籠を捕へて例の麻糸を賣  
 捌り、むらうく、足をおきをこり送らう、急よ呼道して中着よう文之、つを

挿みて、池へお湯を煮い、好くお止。妙もあげてのう、を云まいで、お  
 草でも買つてお食と云へば、己之吉と魚籠を捕へて、妙を送取り、娘一さらは覺  
 束一つはよ草も、おはよ草ねと危険よ。早くお草を買ておいで。あ  
 くと、母の云葉をよ草もよ草も、例の麻糸を賣招り、店あつた  
 へとお送り。  
 女も他愛なく、我子をこり送り、が、草は残り、一枚の干物をこり送り、急よ心  
 付て取入、せむし、ほつておくれど、襟の数を伸き、お却つて都合のよいと  
 獨云、おれも五枚のゆ衣を疊みて重なり、膝も敷て伸つて肌腹より、汗を拭き  
 く、おつと、眺むるとお草のよ草を眺めり。  
 此は源の平はもうりて、海より風の無きや冷きとあり。今日も満潮は九時何  
 分なりと云い、夕暮の風も冷きあり、吾の酔を拂ふは、いん、お草。職  
 の残り、松の梢も何時のなよう草を告て、西の空にはお草の縁をこり







め、お寝のりをするやうに。オイ巴之、巴之。お止よおおさん。改柳てお書き

よ。モウ睡いんだらうちやさいうね。今から睡くさる奴があるんう。オ

イ巴之、母やアと怪言はよ。デー、お市、早く寝入る。

お母様をおまひごめれど、伊勢屋さんやおおさん、モウ寝まやアなうんよ、何

が何らうてお前さん体裁がどううぢやアさうね。良持め、信ア借ど。

お前さん、お前さん、体裁悪くぬがあらんか。良持め、河原ごさ。早く寝て来

ねへう。ぢやア寝て来すよ。お前さん財布をおまよ。財布ど。何處あ

うだらう。あ、此度よあしやうよ。此程飲たがらうと、無理よ止て様始を控せんう。

も、此上何程飲くも、女房お

市の人車より運び、難おの中より、尾女房の財布をえ出、はねよ云ハ

うせの、うのはたかの体中あつとんえたり。巴之よ、お前さんの一様も買て来うと

の御の親が見えらうと、孝深くお前様一書よ、御評の筆をおけはる、

紐とく、お前様を控ひま、様ねとおもあうとらう。お前様、お前様、

一つ、お前様、お前様、小くお前様、湯のうもでも押ひあり、さびやく、

びもまよ、お前様、お前様、お前様、お前様、お前様、お前様、

う。お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、

お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、

お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、

お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、

お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、

お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、

お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、お前様の事よ、

源氏物語 七



ば此お珍目と見えぬ。先刻も先刻とて、女を命とりつらけに惜し。ふ  
 つくせの中が可厭なる事あれども、此後するの事、お天のまゆ、巴  
 お申書さうらうらう。愛ふ人より愛させて置ると、死んで書かぬ事、おの昔  
 どの密も厭わねど、しんをわきま、飲の料の菊さへ、お茶とんが帰もきたら  
 ば、巴こそをを買てき、刺狭が此より五、之はかて書きて、一本も買う。  
 其の刺狭あはば、お茶のねるはの事、お茶の持を書ても、お茶の持はる  
 をんこーとどひーよ、そりさうらうは、お茶の向さへさき、ほよせねとまの  
 ぬお茶。主婦さう向いの持たれども、さきとて、お茶の巴とて、お茶さ  
 もあは、お何よ口が可愛きとて、お茶は親の傍がほすい。此はを  
 暮りて、一昨日十歩浪貸を、それも傳つ一枝。十歩の歩が、親子二人  
 ま何日あるものとどふてぞ。お茶の親が洗濯おの傍の傍の傍とて、お茶も  
 巴こそを、お茶のいふこととせさうらう、お茶の書も傳すべ。それは帰らうとは、

條りと云へを悟る。お茶の好まほをつめて、お茶は親の傍がほすい。此はを  
 け。お茶と、さうやお茶條り。帰らうらうと思ふと、隠しお茶も  
 跡、サア何なる様へ、お茶も傳す。お茶も親の傍の傍とて、お茶も  
 る書と眠らせつて、お茶の早も帰らう。  
 展をゆるし、お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。  
 馬は、お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。  
 各で、お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。  
 時、お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。  
 巴、お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。  
 うら、お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。  
 や、お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。  
 とき、お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。お茶も傳す。

ん家の噂づつて、強きものんせ。お市も怪しむをあらう。云々...  
ア退ねへんぞ。サアぬて来ねへ。伊勢屋より来て来ねへ。さうと云うて...

お市さんお前へ解らふのね。お市さんお前へ解らふのね。お市さんお前へ解らふのね。  
出でさう、何とでもお前さん。サア此屋よ五砂ありやうよ。此のお市さん、此屋の...

着の口を開き、遂にサアと振出ししり。  
辰五郎いんさう祝儀して、難い。心の神々神々。白馬の念の...

子ご。お市、サア買て来ふ。お市の果さうも、まはらぬと飲ませよ。お市の  
思ふに、お市、サア買て来ふ。お市の果さうも、まはらぬと飲ませよ。お市の  
何だ、此の儀より。さうさ、お市さんお前へ...

お市はお市さんばマア、と云つ、巴之吉を巻へ却、辰五郎が洞貨持りよ。お市  
お市さんマア、其を持つて何様お前へ。何様もねやアお前へ、其  
お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。

お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。  
お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。

お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。  
お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。

お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。  
お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。

お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。  
お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。お市さんお前へ。















7  
18

文  
学  
の  
家  
柳  
浪  
著  
い  
とし  
児  
廣  
津  
柳  
浪  
著

092889-000-3

7-18

いとし児

広津 柳浪/著

M27

DBQ-0187

